

# 令和2年度 小平市立小平第四小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** 日本国憲法及び教育基本法、学校教育法、学習指導要領に則り、「他者と豊かにかかわり、知性を働かせ、明日を切り拓く子ども」の育成を図る。

## 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 『みんなの笑顔が輝く学校』
- 【目指す児童像】 「健康な子:心身ともに健康で、毎日の生活を充実させることができる子」 「考える子:課題解決に向けて、主体的・対話的で深い学びができる子」  
「やさしい子:自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる子」 「おこなう子:目標をもち、主体的に行動することができる子」
- 【目指す教師像】 「明るく、元気で前向きな教師」「授業実践力等を磨くために、絶えず自己研鑽に励む教師」「児童への愛情を十分に注ぎ、職務を全うできる教師」「同僚、保護者、地域と協働し、児童のために全力を発揮できる教師」

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

(課題) 基礎学力の定着率を調査した結果、学年差が生じている状況がある。一覧表(これだけは身に付けさせたい基礎基本)を基に、反復練習の時間を十分確保して取り組む必要がある。  
(成果) 1単位時間の授業の進め方や学校のルールやマナーの厳守については、教職員が共通理解を図り、共通指導を展開したので、児童の理解力や行動面での変容がみられた。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	学力定着の目安として、テストの平均点が85点以上の児童の割合を、算数(8割)・国語(8割)・漢字(8割)に設定する。	3	3	昨年度3月から3か月間臨時休業となり、前年度の学習のまとめを十分行えなかったこと、授業時数が削られたことにより、学力の定着が難しかった。日々の授業の導入で既習事項の確認をしたり、モジュール時間を活用したりして、学力定着を図っていく。	3	3	臨時休業があったが、授業時数の確保や基礎学力の定着に努力していた。校内研究を通して研鑽に励んでいた。引き続き学力向上や授業改善に期待する。	日々の授業改善を図り、1単位時間の授業で効果的な学力の向上を目指す。また、毎時間の授業の導入時や補習の時間、家庭学習を十分に活用し、学力の定着を図る。
	校内の研究会や校外での研修会を通して自己研鑽に励み、学んだ内容をすぐに授業改善に生かす。			今年度前半は、研究授業や校外での研修会への参加が全くなかった。校内で指導教諭や主任教諭の授業を参観したり、2学期以降の研究授業に向けての指導案検討を通して自己研鑽を行う。	3		校内研究は予定通り実施することができたが、校外での研修会はほとんど中止となり参加できなかった。次年度開催されるようであれば、積極的に参加し自己研鑽に励み、授業改善に生かしていく。	
健全育成	「四小スタンダード」や「月目標」について定期的に自己評価を行い、結果に基づく主体的な取組を促す。	4	3	「月目標」の振り返りを月2回行い、その月の前半の反省を後半の取組に活かせるようにした。児童の前半の自己評価の結果を踏まえ、児童が主体的に取り組めるよう全学級で促していく。挨拶運動も工夫して行う。	4	4	6年生が中心となって行っている挨拶運動が活発で、挨拶をする児童が増えた。いじめについては、組織で迅速に対応し、早期解決を期待する。	目標の内容や学級によって前半の結果を後半の取組に活かされていっていない状況も見られた。各学級の取組や成果について情報交換し、主体的に改善するための努力をしている児童を称賛し促していく。挨拶運動は大きな成果が見られた。引き続き工夫して実施する。
	定期的ないじめ調査を行い、実態を把握して指導に生かす。「いじめ見逃し」を継続する。	3	3	定期的ないじめ調査を行っている。いじめを認識した際は、組織で迅速に対応し、早期解決に努力している。後期も「いじめ見逃し」の継続に努める。	3	4	認知したいじめに対して、迅速に組織で対応することができた。解決に向けて、当該児童や保護者の状況や思いを大切にしてお互いに対応していくことを今後も継続していく。	
健康体力保持増進	運動量を確保した体育授業を提供したり、体力アップチャレンジ月間(縄跳び、持久走)の取組を充実させたりする。	4	3	活動の制限や感染予防対策を行いながらの取組だったので、運動量の確保が難しかった。学級単位で効果的に見えるよう検討していく。	4	3	例年のようにとはいえないが、方法を変えて学級ごとに実施する等、工夫して体力向上を図っている。健康については、保健便りやその他の配布物等で児童や保護者への啓発に努めている。	制限がある中でも、できることを工夫して行うことができた。来年度も状況に応じて取り組めることを検討し、児童の運動量をできるだけ増やせるよう計画する。
	保健の授業や保健便りを活用して、自己の健康について振り返る習慣を身に付けさせる。	4	3	感染予防と併せて規則正しい生活を習慣付けることによる免疫力の向上を図るため、体力向上・健康の保持増進の啓発を積極的に行っている。後期も継続していく。	4	4	その時々に合わせて自己の健康について目標をもたせたり、振り返りをさせたり、改善を促したりすることができた。配布物や掲示物での啓発も意欲的に行った。来年度も継続していく。	
地域連携教育の推進	学校支援チーム(ナラミスタッフ・学童農園)との連携教育活動を通して、児童の興味関心や知識の向上を図る。			学年単位で活動できないこと、校外学習への制限、学校支援チームが高齢である等の理由で連携教育活動を行うことができなかった。感染予防を踏まえた活動の方法を模索していく。			毎学期初めに、3日間の挨拶運動を実施した。地域連携学習がほとんど実施できなかったのので、来年度はもう少し実施できることを期待する。	学級単位、グループ単位等、行動を共にする人数を減らし、工夫して活動を行ったが、できなかった活動も多い。来年度も方法を工夫して、学習のめあてに沿った効果的な活動ができるよう努める。
	地域活動(放課後子ども教室)を通して、児童の健全育成の充実を図る。			活動の制限が多く、実施することができなかった。できる方法を模索していく。			感染症予防ガイドラインに則り、実施可能な事業を工夫して行った。来年度も方法を工夫して、児童の健全育成の充実を図る。	
教職業務の改善の働き方	提案文書の紙での配布をやめ、メールを活用して資料の事前配布を行い、会議時間と勤務時間の短縮を図る。	3	3	提案文書を事前に確認していなかったり、会議直前の資料配布により確認する時間がなかったりして、会議時間短縮につながらない状況も見られた。教職員一人一人の意識を高めていく。	3	3	ペーパーレスが定着してきている。国語と算数の授業用デジタル教科書を導入したことも、勤務時間短縮につながった。「新しい生活様式」に向けて、学校全体で校務改善に努めていた。	ペーパーレスに対する意識が高まってきた。手元に資料がない分、担当者による前日や当日の声掛けによって教職員にリマインドを行っていく。
	各分掌における課題と改善策を、校内企画書(校務改善アイデアシート)にまとめさせ、年間一人1企画を提案させる。	3	4	日々の学校生活を新しい様式に変えるための検討を全体で行ってきたため、個人のアイデアシートはなかなか提出されていない。後期は学年、校務分掌等で新しいアイデアを提案・検討していく。	3	4	活動に制限がある中でも、様々なアイデアを出し合い、可能な限り活動を行ってきた。来年度もその時の状況を見ながらアイデアを出し合い、校務改善を図っていく。	